

データ駆動型社会に向き合う授業研究（1）

—授業をどう捉えるか—

「データ駆動型社会」という概念は、2015年5月の経済産業省による「CPSによるデータ駆動型社会の到来を見据えた変革」、2018年6月に閣議決定された「未来投資戦略2018」の中で「Society5.0」と共に重点課題として示された「データ駆動型社会の共通インフラの整備」で提唱されたものである。これらに共通するのは、多様で多量なデータを用いた意思決定を通して社会を動かしていこうとする考え方であった。教育の文脈では、GIGAスクール構想の実現を目指す《文部科学大臣メッセージ》「子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育 ICT環境の実現に向けて～令和時代のスタンダードとしての1人1台端末環境～」（2019年12月19日）を経て、「ポストコロナ期における新たな学びの在り方について」（2021年6月3日教育再生実行会議 第十二次提言）において、データ駆動型の教育への転換による学びの変革が提唱された。

これら一連の提言で言及された「データ駆動型社会」ないしは「データ駆動型の教育」は、これからの学校教育に、そして長く定着した授業研究の理念と方法に大きな影響を与えていくことが予想される。このような動きに、私たち教育方法学研究者はどのように向き合っていけばよいのだろうか。

このたびの研究集会では、この課題に「授業をどう捉えるか」という視角から迫り、授業研究の現状と未来について、教育実践と教育政策の動向、そして国内外の研究の蓄積を踏まえて、多角的に検討していく。

日時 2022年6月11日(土) 13:00~16:00

場所 オンライン開催

司会・指定討論者 石井 英真(京都大学)・草原 和博(広島大学)
報告者 戸ヶ崎 勤(埼玉県戸田市教育長)
白水 始(国立教育政策研究所)
柴田 好章(名古屋大学)
金 鍾成(広島大学)

申込方法

参加には申し込みが必要です。下記QRコードからお申し込みいただけます。また、学会HP (<https://www.nasem.jp/>)にも参加申し込み窓口がございます。必要情報をご記入の上、お申し込みください。(※参加申込締切:6月8日(水))
開催前日に、メールでZoomのリンクをお知らせします。
最新情報は、学会HPにもアップしますので、ご確認ください。

※本研究集会は公開で開催いたしますので、非会員で関心をお持ちの方にも広くお声がけください。なお、本企画への参加は無料です。



お問い合わせ先:日本教育方法学会事務局
〒739-8524 広島県東広島市鏡山 1-1-1
広島大学大学院人間社会科学研究科(教)
教育方法学研究室気付
hohojimu@riise.hiroshima-u.ac.jp